

## 精神科

科長 尾崎 紀夫 (教授)

2E

## 年々増加する患者数と症例に多面的な治療で向き合う

成人期のこころの問題について、精神医療の立場から適切な判断とアドバイス・治療を提供します。

## 診療体制

十分な診察・面接時間を確保するため、初診および再診の患者について完全予約制システムをとっています。はじめて受診する患者は、当科の外来に電話もしくは来所して、予約を取る必要があります。



## 対象疾患

統合失調症、うつ病、躁うつ病、認知症、不安障害、パニック障害、摂食障害、睡眠障害などさまざまなこころの問題に対応します。

## 得意分野

青年期から高齢期までの各ライフステージにおけるこころの問題に精通したスタッフが揃っています。薬物療法、心理・精神療法など、多面的な治療を行っています。脳MRIやSPECTなどの神経画像検査や心理検査などによる脳機能の評価も積極的に実施しています。

## 診療実績

年々需要が増加するこころの問題に対し、最新の医療を、入院（50床）や外来で提供しています。また、市中のメンタルクリニックや精神病院との病診連携や病病連携にも力を入れています。

## 専門外来

特に疾患を限定した専門外来は設けていませんが、初診時に患者から状態などを聞いて、最も適切な初診医に予約を入れるようにしています。

## 先進医療・研究

「現在の診断・治療法で最も妥当なものは何か」を検討するとともに、「病態をつきとめ、病態に即した治療・予防法の開発を目指す」ことを基本方針としています。こころの問題に関する最新の知見を日々の臨床に還元すべく、診療スタッフの医療水準を最高に維持するように日々研鑽に励んでいます。



## 小児科

科長 小島 勢二 (教授)

5E

## 全国最多の造血幹細胞移植など高度専門治療が充実

小児科における各医師の専門分野を生かした高度医療を中心に行っています。

## 診療体制

外来は予約制の専門外来（血液・腫瘍、神経、先天性免疫不全、新生児、ウイルス、循環器、内分泌、遺伝）と一般外来を設けています。入院は血液・腫瘍性疾患、新生児、神経疾患などを中心に診療を行っています。



## 対象疾患

白血病、リンパ腫、再生不良性貧血などの血液疾患や神経芽腫などの腫瘍性疾患、低出生体重児や先天性横隔膜ヘルニアなどの新生児疾患、難治性てんかんの小児神経疾患、先天性免疫不全症、慢性EBウイルス感染症などです。

## 得意分野

造血幹細胞移植は全国でも症例数が最も多い小児施設のひとつです。新生児では先天性横隔膜ヘルニアなど新生児外科疾患に力をいれ、難治てんかんの患者ではビデオ脳波同時記録やPETを用いて診断を行っています。

## 診療実績

2011年の血液・腫瘍性疾患の新患の患者数は60人で、造血幹細胞移植数は31人です。てんかんなど神経疾患の年間外来患者数は延べ約3,000人、新生児のNICU入院患者数は年間270人で先天性横隔膜ヘルニアは9人です。

## 専門外来

小児血液・腫瘍外来、小児神経外来、先天性免疫不全症外来、新生児外来、ウイルス外来、小児循環器外来、小児内分泌外来、染色体・遺伝性疾患外来を設けています。

## 先進医療・研究

細胞を使って造血幹細胞移植にともなう合併症を克服する臨床研究、新生児のけいれん発作の脳波モニタリング、新生児脳症の脳低温療法やPET、高磁場MRIによるてんかん焦点同定の臨床研究を行っています。

